KAGOSHIMA UNIVERSITY VISION

鹿児島大学 2050

多様性を力に、次の100年に向けて



CONTENTS

01 2050 年の世界と日本

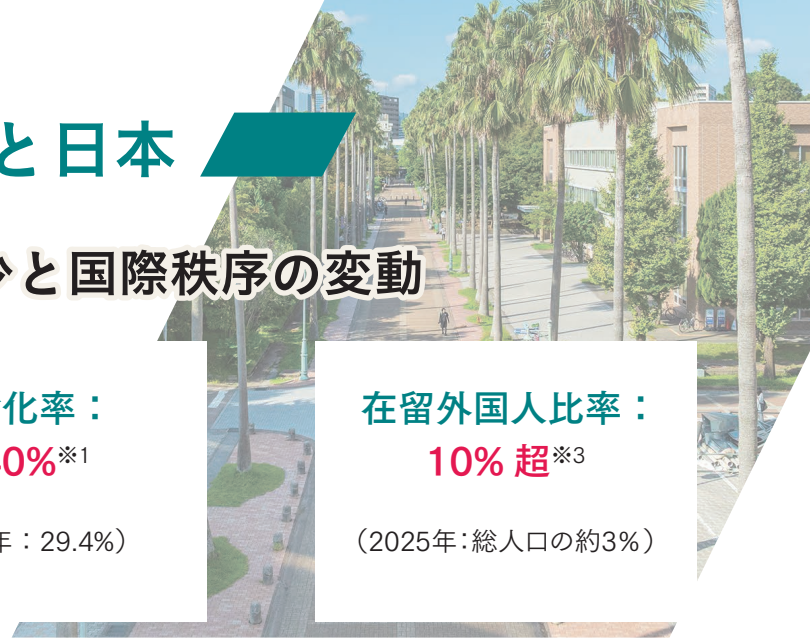
02 鹿児島大学の目指すもの

03 大学を形作る６つの柱
教育／研究／医療／社会連携／国際化／経営基盤

04 むすび

国立大学法人
鹿児島大学
KAGOSHIMA UNIVERSITY

01｜2050 年の世界と日本



進む国内人口減少と国際秩序の変動

2050年の日本の人口：
1 億人未満※1

（2025 年：1 億 2 千万人
2100 年：6.3 千万人※2）

高齢化率：
約40%※1

（2025 年：29.4%）

在留外国人比率：
10% 超※3

（2025年：総人口の約3%）

不確実性を増す国際環境

- 分断と対立、自由貿易体制の後退
- 気候変動と紛争による食料安全保障リスク
- 国境を越える新興・再興感染症の脅威

大学に求められる役割

- 「強靭化戦略」※2 を教育・研究・医療から担う
- 課題先進地域の解決策を全国・世界のモデルへ
- 外国人との共生社会づくりを率先して牽引

※1　国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（2023年４月）
※2　人口戦略会議「人口ビジョン2100」（2024年1月）
※3　1では2070年に約10%と推計されているが、2050年前後に前倒しになるという予測が公表

02｜2050 年 鹿児島大学の目指すもの

2100 年の社会を支える人材を供給し続ける

- **造士館※4 を源流とする総合大学として、地域から世界を牽引する高等教育機関へ発展します。**
- **将来の人材需要を見据え、大学の規模、学部・研究科の構成、教育内容を不断に見直します。**

社会的役割の３本柱

①社会ニーズに応じた高度専門人材の育成
②特色ある研究の支援と伸長
③地域の諸課題の解決を担う

先見性と持続性

県境にとらわれず、大学や関係機関との連携や機能の統合を進め、必要な分野に必要な人材を的確かつ持続的に供給

AI for Science への投資

AI を科学研究に組み込む変革を研究力強化につなげ、オープンサイエンス型研究大学へ転換

※4　薩摩藩第８代藩主・島津重豪公により、1773年（安永２年）に創立された藩校

03｜大学を形作る６つの柱

03-1｜教育

文理の枠を超えた融合的な学びへ

1
教育内容の不断の見直し

世界水準の研究に裏打ちされた高度専門教育と地域課題の社会実装型教育を両輪で展開し、AI リテラシーを実践的能力として育成します。

2
多様な人材の受入れと規模の再編

思考力・判断力・主体性等を重視した人材選抜、留学生拡大、リスキリング・リカレント教育、学士～修士の５年一貫教育を導入します。

3
分野横断的な高度専門人材の育成

離島・へき地特有の課題に、全学部の学生が横断的に協働して取り組み、デジタル公共サービスなど、地理的制約を逆手に取った先進的モデルを創出します。

4
グローバル化と多様性の基盤

外国人学生・教員の受入れと日本人学生の海外派遣を一体的に推進し、多様性そのものを知の創造の源泉とする教育を実現します。



03-2｜研究

オープンサイエンス型研究大学として地域から世界へ

1
重点領域

農水獣の連携による食料安全保障、J-PEAKS※5 に基づく先進的感染制御／食と安全／島嶼環境と生物多様性／防災・減災を柱とした研究を推進します。

2
全学的研究戦略

学術研究院の再編による研究力向上、起業家精神の涵養、科学リテラシーと社会連携、研究基盤整備と FAIR※6 原則に基づくデータ管理を徹底します。

3
地域性を生かした研究

奄美キャンパスを実証フィールドとする離島の医療・防災・環境を一体化した課題解決型研究を強化するとともに、地域発スタートアップの創出を目指します。

4
国際共同研究と頭脳循環

アジア地域など海外の大学とのダブルディグリー・共同博士課程での異分野融合クラスター（グローバルヘルス／リスク／エコロジー）を国際的に強化します。

※5　文部科学省が実施する「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」の略称
※6　Findable（見つけられる），Accessible（アクセスできる），Interoperable（相互運用できる），Reusable（再利用できる）



03-3｜医療

高度・専門・政策医療を担う広域中核病院へ

1 規模の最適化

患者数が2026年から2割程度減少すると予想される2050年に備え、診療対象と規模を見直し緩やかなダウンサイジングを受け入れつつ、「広域中核病院」機能を一層進化させます。

2 危機管理・災害医療

第一種感染症指定医療機関・原子力災害拠点病院として危機管理体制を強化し、鹿児島県内に留まらず九州各県との広域連携ネットワークを形成します。

3 高度専門医療と広域診療

がん・高度外科手術・希少疾患・移植医療・離島からの救急医療など、高度な技術と医療資源を要する医療に重点を置き、地域で対応困難な医療を担う「最後の砦」であり続けます。

4 人材育成と離島医療

地域への医師派遣を責務として、多職種チーム医療を拡大し、県内 28 の有人離島には遠隔医療による診療相談と総合診療が可能な医師派遣を実施します。

03-4｜社会連携

産学官金の連携で地域の産業振興と課題解決へ

1 大学間連携

既存の連携基盤を活用し、共同教育課程の設置、単位互換の拡充、地域課題に対応した共同研究の推進を通じて、県内外の高等教育機関との連携を一層強化し実質化させます。

2 行政との連携

既設のプラットフォーム・コンソーシアムを発展させ、資源循環、離島・中山間地域の振興、ゼロカーボンシティの実現など、地域の将来に直結する課題に対応します。

3 産業界との連携

農業産出額全国2位の一次産業分野、また AI データセンターの新設による半導体、情報通信、データサイエンス、エネルギー等の分野に対応した関連企業等と連携し、これらが求める人材を育成します。

4 金融機関との連携

金融機関と協働して、地域企業の成長支援、起業支援、学生のキャリア形成、金融リテラシー教育を推進し、産学官金による地域イノベーション創出を支援します。



03-5｜国際化

島嶼域を起点とする地球規模課題の解決拠点へ

1
教育面

国際教養科目の必修化と国際共修の体系化、大学院講義の英語化や多言語教育環境の整備とともに国際共同学位プログラムの拡充を進め、留学生の国内就職を支援します。

2
研究面

「島嶼域=地球の縮図」の視点で国際研究拠点を形成し、海洋・火山・生物多様性・環境保健で世界トップクラスの研究クラスターを構築します。

3
医療分野

離島・へき地医療と DX・AX、多文化医療を組み合わせた「鹿児島モデル」をアジア太平洋の国際標準として展開・発信し、世界の過疎地域医療をリードします。

4
推進基盤

「鹿児島大学国際戦略」※7 に基づき、国際化に携わる教職員の専門性を高め、データ駆動型マネジメントを確立することで、国際連携を持続的に支える組織基盤を構築します。

03-6｜経営基盤（財務・人事）

柔軟で機動的な経営基盤が支える大学へ

1
収入の多様化と資産の活用

財務状況を把握・最適化するとともに、寄付金の募集や資金運用を強化し、知的アセットの適正な価値付けと専門人材の育成・登用を進めます。

2
共創・防災拠点としての機能強化

地方自治体等と連携してキャンパスを活用し、キャンパスマスタープラン等に基づく計画的な整備や施設の集約・有効活用を進めるとともに、共創拠点・防災拠点としての機能を強化します。

3
学術研究院の実質化と複線型人事

時代に即した柔軟な改組と職種間異動を可能とする複線型人事制度及び人件費ファンド制度を導入し、企業や地方自治体への戦略的な人事交流を拡大します。

4
評価・育成とDE&I※8

エフォートを考慮した評価とインセンティブの付与、高度専門職員の育成、若手教職員の海外派遣を促進し、DE&I 推進と働き方の柔軟化を図り、次世代の人材を育てます。

※7　2026 年2月 19 日に制定された鹿児島大学における国際展開の基本方針
※8　ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン：全ての人が公平に能力を発揮できる環境をつくる考え方

04 | むすび

2050年から現在を捉え直し、2100年を見据える

複合的かつ不可逆的な変化のなかで、
鹿児島大学は知（智）の基盤として存在意義を一層高めます。

鹿児島大学は地域に根差した総合大学の強みを基盤に、
教育・研究・医療・社会連携・国際化を有機的に結び付け、
強靭で成長力のある社会の実現に貢献します。

課題先進地域から世界へ

離島・へき地の課題解決から得た知見を、広域的・国際的に展開してこれからの社会のモデルとします。

高度専門人材の安定供給

将来の人材需要を見据え、必要な分野に持続的に人材を供給する社会的使命を果たします。

機動的・柔軟な大学運営

組織や制度の固定化を避け、連携と資源の最適配分により戦略的経営を進めます。

鹿児島大学2050
全体版はコチラ

【お問い合わせ】
鹿児島大学総務部企画評価課
TEL：099-285-7047（内線：7047）
E-mail：kikakus@kuas.kagoshima-u.ac.jp
https://www.kagoshima-u.ac.jp/index.html

2026（令和８）年９月策定